

台湾 私立開南大学 交換留学報告書

法文学部人文社会学科法学政策学履修コース

3 回生 石橋 凌

1. はじめに

私は台湾の私立開南大学で姉妹校交換留学を利用して 2022 年 9 月から 2023 年 2 月にかけて留学した。留学プログラムに関して、中国語の学習を目的とするコースと、英語で行われる講義を履修するコースの 2 つを選択できるが、私は中国語の学習を目的とした留学プログラムに参加した。開南大学は語学習得に打ち込める環境が整えられており、短期間で語学力を飛躍的に向上させることができた。また、留学先で国籍の異なるさまざまな個性を持つ学生と出会え、充実した留学生活を送れた。本報告書では、留学に至った経緯から留学生活の様子、留学先で学んだことを具体的に報告する。最後に、私は関奉仕財団様より留学支援奨学金をいただいたことで留学のチャンスを実現することができた。ここに謹んで御礼申し上げる。

2. 留学動機

私の出身は平和学習推進事業を推進している広島県である。広島県では、小中高校の各段階において平和を考える機会がある。その中で、私は学年が上がるにつれて平和に対する思いが強くなっていくとともに、海外に興味を持つようになった。愛媛大学に入学して以降、英語や中国語、フランス語などの語学を学習し海外への興味がさらに高まった。私は大学二年生の時に希望するゼミナールに所属することができた。ゼミナールでは、平和について自ら考える機会をいただき、平和の尊さ、大切さを改めて認識することができ、その結果、平和の実現についてより研究したいと考えるようになった。その第一歩として、台湾と日本の関係に目を付けた。現在、日台の絆は太く、観光業や貿易業など経済面における結びつきも非常に強いように思える。私は台湾での留学を通し、台湾の歴史を鑑みたくうえで二か国がどのように良好な関係を構築していったのか、また台湾の様々な場所に足を運び、現地の人が日本に対してどのような感情を抱いているのかを調査したいと思った。そして、その研究成果を愛媛大学に持ち帰り、今後の学修の糧にしたいと考えている。

3. 開南大学を選んだ理由

2019 年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響が 2022 年も続き、台湾でも多くの留学候補先の大学がオンライン型の留学プログラムに変更になった。その中で、開南大学だけが実際に渡航する形での留学プログラムを実施したため、開南大学に興味を持った。開南大学は、交換留学生に対して語学習得に専念できる環境を整えているだけでなく、交換留学生の所属学科関係なく開南大学内で開講されているすべての学科の講義を受講することができる。私は開南大学で語学習得だけでなく、自由に自分の興味のある分野を学ぶことが実現できると考え、留学先として開南大学を最終的に選択した。

4. 授業について

私の開南大学における所属学部は人文社会学部「応用日本語学科」である。一般的に交換留学生は応用日本語学科の所属になる。（希望を出せばほかの学部にも所属することもできる。）所属は応用日本語学科として登録されるが、交換留学生は所属学科関係なくどの科目の授業でも履修することができる。開南大学の学部、学科は下記の通りである。

【開南大学 学部・学科】

商学部：企業・起業管理学科、国際企業学科

情報学部：情報コミュニケーション学科、映画・クリエイティブメディア学科

観光運輸学部：物流・運輸科学学科、観光・ホスピタリティ学科、空運学科、レジャー事業管理学科

人文社会学部：法律学科、応用日本語学科、応用英語学科、応用華語学科(中国語学科)

ヘルスケア管理学部：保健栄養学科、健康産業管理学科

(1) 中国語の語学学習

私は、中国語の語学学習を目的として、交換留学生向けに開講されている「基礎華語一」「基礎華語会話一」などの初歩的な語学学習得の授業以外に、「応用華語学科」で開講されている「初級華語一」、「漢字取得一」、「華語発音一」を履修し語学学習得に励んだ。留学先で初めて本格的に語学学習得へ打ち込んだため、これらの授業を履修した。開南大学には他にもレベルに応じた様々な授業が豊富に用意されており、自分の語学レベルに合わせて最適な授業を選択することができる。私は中国語の語学学習を目的とした講義の一週間あたりのコマ数は、12コマであった。

※台湾では1コマ当たりの授業時間は50分である。

(2) 専門分野の学習

私は、交換留学の際に持参した留学計画書に基づき「観光学」や「台湾史」などの専門科目を9コマほど履修した。観光学では、台湾の観光事業の発展や工夫を統計や資料と照らし合わせ学習するほかに、実際にグループに分かれ現地に足を運び調査した内容を共有しあう口頭発表もあった。観光事業に対する理解や台湾の観光まちづくりの調査ができた。「台湾史」では、台湾の歴史をはじめ台湾と日本及び中国との関係や台湾の国民性意識の変遷に関して学習した。日台・アジアの国際関係理解と平和構築を考えるきっかけになった。

(3) 授業の様子

授業の成績は、筆記試験もしくは口頭発表、実技あるいは口頭発表と筆記試験の結果により決まる。その中でも口頭発表は、課題に対するグループ毎の活動、研究結果を発表することが求められるため、学生同士での交流が多く、課外活動などの日程を設定し活動した。

【グループ活動】



(科目) 観光学
(場面) 調査



(科目) 漢字習得一
(場面) 発表準備

【口頭発表】



(科目) 観光学
(場面) 発表資料



(科目) 観光学
(場面) 発表中

5. 語学レベルに関して

私は開南大学の授業以外に語学学習達成度を確認するために3か月に1回程度台湾で実施されている外部試験の「TOCFL 華語文能力測驗」を受験した。TOCFLは、台湾の公式中国語検定であり、入門レベルから上級レベルまでの6つのレベルに分かれている。字体は繁体字である。留学に来て2か月が経過した2022年11月に初めてBAND B級（レベル3）を受験した。結果は不合格であった。結果を踏まえて、2023年1月に実施される同試験に向けて独自に対策し学習に励んだ。そして迎えた1月の試験では、リスニング485点（レベル3）、リーディング590点（レベル4）を獲得し、総合評価BAND B1（レベル3）合格を達成することができた。中国語の学習に取り組み約4か月で結果を残すことができたのは、自分の語学レベルに合わせて無理なく学習を進めることができたからだと思う。

6. 現地での生活

(1) 寮生活

私は開南大学の寮で現地の学生と共同生活をした。学生寮での生活は、経済的な負担を減らすことができるほか、中国語を使用する機会が格段に増える。また、ルームメイトは学部の学科ごとにまとまっているため、私の場合、応用日本語学科に通う現地の台湾人学生3人と一緒

になった。どちらもお互いの言語に興味を持っているので、言語を教えあう生活であった。これは短期間で語学力を向上させることができた理由の一つである。また、現地の学生と学校以外の時間を共有することは、現地の文化や価値観を学ぶ機会に繋がった。総合的に寮生活は満足のいくものだったが、デメリットもある。それは、風邪や病気がルームメイト間で感染しやすい点だ。2022年はコロナウイルス感染症への対策もあり、ルームメイトの一人でもコロナウイルスに感染した場合、ルームメイトは全員隔離部屋に隔離され、授業への出席はともかく、外出も禁止された。実際、ある時期に寮内でコロナウイルスの感染者が爆発的に増え、多くの学生が隔離された。この時期は、自室でもマスクを着用し、コロナウイルスへの感染対策を行ったが、自分のルームメイトの一人が感染してしまい、私も隔離部屋を体験した。寮生活を選択する場合、様々な種類の薬を豊富に持っていくと心強いと思う。

※大学提携のアパート、マンションを借り、一人暮らしをすることもできる。

【寮生活の様子】



(場所) 開南大學宿舍 308 室

(2) 食生活

台湾は外食文化が発展しているため、基本的に自炊をする必要がない。飲食店は、価格も安く、メニューも種類が豊富に用意されているため毎回の食事が楽しみであった。

朝ごはんは学食で済ませるほかに、学校の近くある「早餐店」と呼ばれる朝ごはん専門店によく通った。「早餐店」では、トーストやハンバーガー、おにぎりなどを購入することができる。その中でもおすすめは、「蛋餅」「蔥抓餅」である。台湾のソウルフードであり、様々な具材がクレープのようなものに巻かれて提供される。朝やお昼はこのような「早餐店」に行くことが多かった。昼や夜は、Youbike と呼ばれる貸出の自転車に乗り、近くの飲食店や夜市に友人と行き、食事を済ませることや、公共交通機関を利用し、台湾グルメを食べに行くことが多かった。食事は、現地の学生とかかわる機会でもあり、語学力を向上させる機会でもあった。

【早餐店】



(左) 「早餐店」



(右) 「蔥抓餅」

【夜ご飯】



(左) 夜市
(商品) 麵包



(中) 小吃店
(商品) 魚皮湯と滷肉飯



(右) 牛肉麵店
(商品) 牛肉麵

【台湾グルメ】



(左) 果物
(商品) 釋迦



(中) デザート
(商品) 雪花冰



(右) 伝統的な朝ごはん
(商品) 豆漿と油條

7. 楽しかったこと・つらかったこと

(1) 楽しかったこと

私は、留学前に言葉や文化の違いがある留学先で友達を作れるのかと懸念していた分、留学先では積極的に交流会に参加した。私が意識していたことは、明るいコミュニケーションを心がけ、一人ひとりとのつながりを大切にすることだ。日が経つごとに、台湾の人だけでなく、韓国やモンゴル、ベトナムなどほかの国からの留学生ともつながりを持つことができた。私は、中国語を用いたコミュニケーションを通して、様々な人とつながりを作っていたことが楽しかったことだ。留学先でなければ、経験することができなかった思い出の一部を紹介する。

(1) ホームステイ

留学先の学校の冬休みを利用して、ルームメイトの家で1週間程度ホームステイをした。ホストファミリーの皆さんには暖かく歓迎していただき、充実した一週間となった。ホームステイでは、台湾で公用語とされている中国語（繁体字）とは別で使用されている台湾独自の言語である台湾語に触れることができたり、現地の郷土料理をいただく機会があり、台湾についてより深く知ることができた。

【ホームステイ】



(左) 阿咪米苔目
(商品) 米苔目



(中) ホストファミリー
(場面) 集合写真



(右) 風景
(場面) 台東

(2) 高校生との交流 (交流会)

現地の高校に招待され、お互いに自国の伝統料理を発表した。発表後、台湾の伝統的な料理である「饅頭 (マントウ)」を現地の高校生と製作した。台湾は多民族国家であり、原住民の作る伝統料理だけでなく、中国大陸からの移民がもたらし、台湾本土で発展させた郷土料理も存在している。この経験を通し、台湾の食文化に対する知見を広げることができた。

【高校生との交流】



(左) 口頭発表



(中) 集合写真



(右) 饅頭

【つらかったこと】

私自身ほぼ中国語を話すことができない状態で来台したので、現地の学生との日常的な会話を初め、授業の内容理解、グループ討論など様々なところで苦戦した。また、留学に来ているほかの留学生と語学のレベルを比べられる機会が多くあり、その度に留学前に語学を準備しておけばよかったと後悔した。

8. この留学を通して学んだこと

私は、国籍や文化が違うさまざまな人と研究テーマや考え方、価値観を共有しあう中で、自国の特色や課題を知るだけでなく、それぞれの国の特色や課題に興味を持つことができた。また、留学当初に設定した「日台・アジアの国際関係理解」と「日台のSDGS(持続可能な開発目標)比較」に関連する学修を通して、より深く台湾について理解を深めることができた。

(1)「日台・アジアの国際関係」

私は、日台・アジアの国際関係を理解するうえで、台湾史を学修した。台湾は、外部政権からの支配を受けた歴史を持つ。その証拠に、台湾の国旗は過去に8回も変わっている。その各時代の建造物や資料は、各地に博物館や記念物として保存されている。そして、これらの歴史は少なからず、国際社会の中での台湾の立ち位置や台湾の国民意識に影響している。また、台湾には政府が認めているだけで全人口の1.1%を占める16族の原住民(2021年)と全人口の9割を占めている本省人(閩南人や客家人など)や移民族などが存在する。そして、それぞれの文化が共生する多文化共生社会が実現している。それらの文化は台湾各地で博物館や文化体験会などによって保存され次世代に伝えられている。

台湾で生活していると、日本の商品を取り扱っているお店がよく目に入る。ベトナム人や韓国人など他国の留学生の友人も同様で、自国の商品が簡単に手に入ると会話を交わした。一般的には、異国の地で自国の商品が簡単に手に入ることは稀である。この特色は、台湾が国際物流の中継拠点であるということも関係しているが、私は台湾が異文化に対して寛容的であり、多文化共生社会の形成に積極的だからこそ実現していると思う。

私は台湾史を学修することによって、国際社会と台湾の関係を考察することに繋がった。また、それに対する自らの意見を持つこともできた。

(2)台湾のSDGS

SDGSとは、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」であるが、台湾は国連に加盟していない(2023年現在)のにもかかわらず、自らSDGSを推進している。台湾はSDGSに関する取り組みを通して、世界にいつでも貢献できるという姿勢を示し続けている。言い換えるならば、台湾は自国のSDGSを世界に発信することで自国の存在価値をアピールしている。私は、台湾の世界に発信し続けるSDGSを学習する中で、特に国民ひとり一人が意識し日常生活に取り入れているSDGSに興味を持った。

例えば、外食文化がある台湾ではお店で食べきれなかった商品を持ち帰る「打包」と呼ばれる文化やペットボトル飲料の購入を減らすために、マイボトルを持ち歩く文化がある。飲料店では、マイボトルを持参すると、マイボトルに注文した飲料を注いでくれるだけではなく、割引もある。また、町の至るところに、給水機が設置されており、ペットボトル消費を削減すると同時にCO2削減に貢献している。

また台湾では、移動手段のシェアリングサービスが環境保全のため充実している。日常的に使用されているレンタル自転車 Youbike(微笑自転車)や共有電動バイク「Gogoro」は、台湾の環境問題を解決する手段の一つである。Youbike は、台湾では公共交通機関の一つと認識されている。専用の駐輪場が一定区画ごとに設置されており、30分以内に専用の駐輪場（借りた場所以外でも可能）に返せば、無料でレンタルすることができる。目的地までの「最後のワンマイル」を結ぶ交通手段となっているため、駅や繁華街などに駐輪場が多く設置されている。

バイク大国である台湾は、大気汚染の問題が深刻化している。その中で、「Gogoro」のシェアバイクシステムは、電動化によるクリーンエネルギーの推進、環境保全を目指している。電気バイクの電池交換場所はガソリンスタンドをはじめとする街の至るところに設置されており、利便性にも優れている。バイクは、アプリで簡単に借りることができ、返す場所は特に定められてなく、目的地に置いておくだけでよい。また、使用したいときにアプリを使用し、近くに停車されているバイクを見つけ、使用するのである。その他にも、台湾ではバスの電気エネルギー化などが進められており、クリーンエネルギー実現に近づいている。

【台湾の SDGS】



(左) 給水機



(中) Youbike



(右) 共有電動バイク

9. おわりに

「台湾」と聞くと、親日のイメージがあり、旅行先にも人気の場所である。しかし、私はこの留学期間の半年間を利用し、語学や歴史を学び、文化にも触れた。その結果、台湾に対する見え方が今までと変わった。また、さらなる語学力の向上及び異国の地における現地の学生との交流から刺激を受けながら過ごすことができる貴重な時間を延ばしたいと強く思い、さらに半年間の留学延長を決定した。

現在の日台関係は、架け橋の一人一人が努力した結果であり、たゆまぬ努力のおかげである。この報告書を通して、台湾を知っていただき、興味を持つ、もしくは国際社会に関心を持っていただけると幸いだ。

以上